

【技術の名称】 仕口内継手工法 －梁主筋の機械式継手を内蔵する柱梁接合部工法 －（改定1）	性能証明番号： GBRC 性能証明 第15-08号 改1 性能証明発効日： 2017年10月18日 【取得者】 株式会社長谷工コーポレーション
---	---

【技術の概要】

本技術は、鉄筋コンクリート造における梁主筋の接合を、柱梁接合部内で機械式継手によって行い、柱梁接合部を構築する工法である。本技術の対象とする柱梁接合部の形状は、十字形およびT字形とし、用いる機械式継手は第三者機関によってA級継手もしくはSA級継手としての性能の証明を取得したものとする。また、柱梁接合部に接続する柱および梁の構造は、場所打ちまたはプレキャスト鉄筋コンクリート造で、柱梁接合部は場所打ち鉄筋コンクリート造を対象とする。

【改定の内容】

新 規：GBRC 性能証明 第15-08号（2015年6月2日）

改定1：GBRC 性能証明 第15-08号 改1（2017年10月18日）

- ・T字形接合部を追加

【技術開発の趣旨】

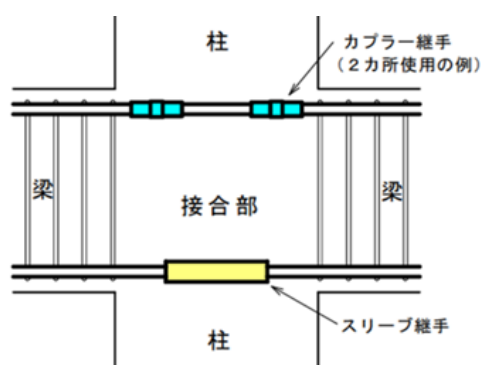
本技術は、施工の生産性向上のため合理化・効率化を目的に開発したもので、柱梁接合部内に梁主筋の機械式継手を設けない従来の柱梁接合部と同等の構造性能を保証

している。一般に梁主筋の機械式継手は、梁端部を除く梁のスパン中央付近に設けられる。このため、ハーフ PCa 工法を適用する場合でも、継手部周囲の型枠およびコンクリート工事が必要となる。また、場所打ち工法の場合でも、継手部の型枠には、継手締付け用の開口を設ける必要がある。これに対して本技術では、梁主筋を柱梁接合部内で機械式継手により接合するため、ハーフ PCa 工法、場所打ち工法いずれにおいても、継手部周囲の型枠およびコンクリート工事の省力化が期待できる。また、ハーフ PCa 工法の場合は、一スパンを一部材とすることも可能になり、作業効率の向上、据付精度の改善などにも寄与するものである。

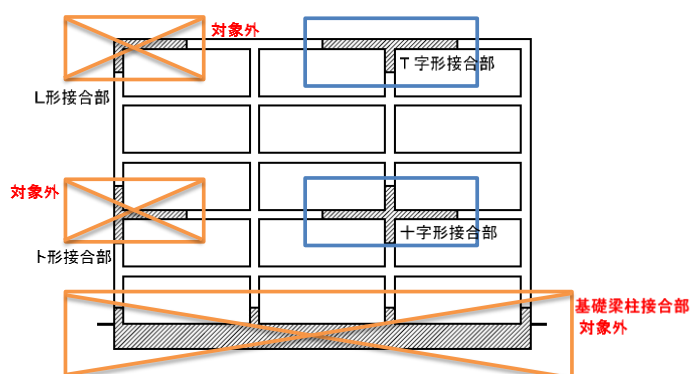
【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「仕口内継手工法 設計施工指針」に従って設計・施工された鉄筋コンクリート造柱梁接合部は、短期荷重時に修復性を損なうひび割れを起こさず、同指針で定める終局耐力および変形性能を有する。



本工法の概要



本工法が対象とする柱梁接合部

【本技術の間合せ先】

株式会社長谷工コーポレーション 技術研究所

担当者：平田延明

E-mail：Nobuaki_Hirata@haskeo.co.jp

〒343-0822 埼玉県越谷市西方 2968 番地

TEL：048-988-7717 FAX：048-988-7727